

地域で農事組合法人を設立し、 活性化策を展開する オリーブ栽培事業

4年前に農業生産法人を設立した(株)堀内組は、地元が世界遺産の暫定リストに登録されたのを機に、オリーブ栽培に取り組むことにした。オリーブは化粧品や植物性油としての需要が見込まれ、その栽培を事業化することで、建設業の人員や設備を充てられるほか、地域の活性化、コミュニティビジネスの創出、耕作放棄地の解消にも貢献できる。



植樹したオリーブ。植物性スクワラン、天然ビタミン、ポリフェノール等の天然成分が多く含まれ、主に食用油や化粧品として用いられる



地元鳥おこしグループの「物多田舎(もったいななか)黒島友の会」の皆さんと堀内組スタッフ

PROFILE

株式会社堀内組

代表者／山下 功三(代表取締役)

所在地／長崎県佐世保市

資本金／8,000万円

従業員数／91名

URL／<http://www.horiuchi-g.co.jp/>

事業内容／昭和 25 年設立。土木業、建築業、道路舗装工事を中心とする公共民間工事をこなす総合建設業である。堀内グループとして、建設関連部門、福祉部門、農業部門、住宅リフォーム部門と幅広く事業を展開する。ISO9001、14001 の認証を取得。



1. 事業の背景と動機

地域のオリーブ栽培への 協力活動を事業化

同社は、公共事業の減少等を受け、経営の多角化を図るべく平成 17 年、農業生産法人「フロンティアアグリカルチャーながさき(以下 FAN)」を創設し、ブルーベリー等の栽培に取り組んできた。

そして平成 19 年、長崎のキリスト教関連資産が世界遺産登録の暫定リスト入りしたのを機に、地域を活性化し過疎化に歯止め掛けようと、FAN とともにオリーブの栽培に乗り出すことにした。

2. 進出時の苦労やその対応

人的ネットワークで多くの壁を 乗り越える

オリーブの栽培地や農事組合法人を設立するための協力者探し、労働力の確保、栽培技術の導入、販路の確保に苦心、培ってきた人的ネットワークを活用して対応した。また、同社が教会の関連施設を建設してきたことにより、教会施設内にオリーブを植樹できたこと、農業従事者の臨時雇用、東洋オリーブ(株)との業務提携などが役立った。

3. 新事業の概要

地域農家と法人を設立して オリーブ栽培事業

本事業では、FAN とともに、地元土地を所有する複数の農家との間で農事組合法人を設立、オリーブを栽培する事業に取り組むものである。

具体的には、地域住民を中心とした計画立案、地域ブランド作物の創出、雇用の創出、耕作放棄地の活用などが柱。土壌改良を含む栽培地の整備には同社があたり一方、生産されたオリーブは同社グループ企業がすべて買い取り販売を行う計画である。

4. 事業の推進体制

本体とグループ企業間で担当分け

同社内に農業経営プロジェクトを発足させ、総務部が支援する体制を整えた。また、グループ企業の農業生産法人 FAN が、長崎県県北農業改良普及センターや東洋オリーブ(株)からの技術指導を受けながら、栽培技術の獲得・蓄積を担当。さらに、別のグループ企業の内部にアグリ事業部を発足させて販売担当とし、経験者 2 名を採用した。

5. 差別化戦略・競争戦略

コミュニティビジネスを創出、 地球温暖化の歯止めにも

地域で農事組合法人を設立することによってコミュニティビジネスを創出する。これは全国一律のビジネス感覚の対極にあり、地域の細かいニーズを取り込める利点がある。また、単にオリーブを栽培するだけではなく、二酸化炭素の排出削減につながり、環境に貢献するカーボンオフセットの手法としても位置づける。

6. 成果と課題

賛同者が増えて成長基調にある ものの、事業資金の調達が課題

オリーブの試験栽培のため、5カ所の農地(計 33 アール)に計 250 本の定植を終えている。現在、本事業に賛同する地域の農家が増えており、今後はさらに多くのオリーブを栽培できることが見込まれる。栽培技術の研修もすでに何度か実施、さらに重ねる予定をしている。その結果、本事業に必要な資金が不足することが予想される。これまでは、幹事会社である同社が支出してきたが、今後は行政からの支援も模索していく。